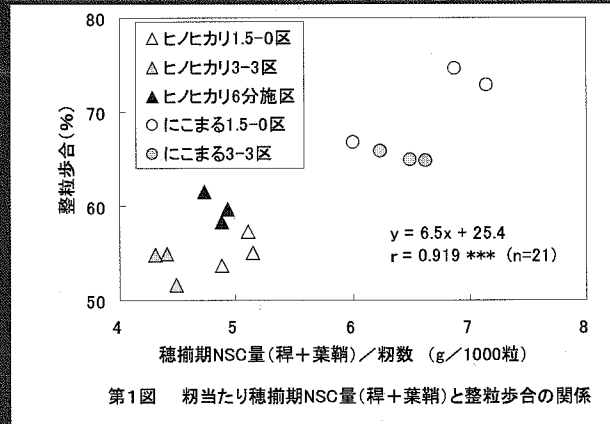


高温に遭遇しても品質が低下しない栽培技術 — 施肥管理 —

★穂肥増加は背白、基白、充実不足の発生抑制に効果があるが、籾数増加により乳白の発生、そして倒伏、食味低下を招く可能性もある。
★これを打破する施肥管理法として、少量ずつ窒素を吸収させる分施、緩効性肥料、地力窒素は、籾数増加、倒伏を抑えつつ登熟力を向上させる可能性がある。



登熟診断結果の翌年の栽培方法への反映

近年、画像解析で腹白粒や背白粒等を区別する穀粒判別器が開発され、平成13年からの民営検査の開始を受けて、各地域のJA等への導入が急速に進んでいる。

これらの品質判定結果は、生産者へフィードバックされて翌年の品種選択や栽培方法へ反映されることを期待したい。

生産者が自分の圃場で獲れた米の品質を細かく知り、品種や栽培条件との関係に思いを巡らし、次年度の生産に生かす姿勢が品質向上への大きな一歩と思われる。

今後の課題

★高温寡照条件で食味を落とさずに玄米外観品質が高くなる品種、栽培技術を明らかにすること。

「にこまる」は、
そのヒントを与えてくれているのではないか！？

